

志賀高原ロマン美術館 [志賀高原ロマン美術館]

志賀高原ロマン美術館（しがこうげんろまんびじゅつかん）は、1998 年に開催された長野冬季オリンピックに合わせて、1997 年に開館した。設計は、日本の著名な建築家であり、メタボリズム運動の発起人の 1 人である黒川紀章（くろかわきしょう）氏（1934～2007）である。メタボリズムという運動の名称は、生物学における新陳代謝の概念に由来し、生物同様に、建築物も環境に応じて成長、変化すべきという信念を表している。

この美術館でひと際目を引くのが、カフェが入っている円錐型のガラスの建物で、自然光が中まで惜しげなく差し込むようになっている。時間の移ろいとともに、周囲の木々が作る影がガラスを通して建物の内部に投射され、さらに夜になると、その空間は煌々と輝く光の塔に姿を変える。外には、建物を囲むように小川が流れており、そこに流麗な楕円形の美術館棟が映し出される。

美術館の 1 階には、2 千年前に作られたローマングラスの器のコレクションが展示されており、黒川氏が設計した円錐形の展示ケースに収められている。このガラスは珍しい銀化現象によって、その生来の美しさがいっそう増している。これは何世紀もの間地下に埋まっていたことでもたらされたものである。2 階には、主に地元に関連のあるアーティストを取り上げた季節展示品が収蔵されている。また、敷地内には、2017 年に近くの小海町（こうみまち）で制作活動を行ったアメリカ人アーティスト、ディーン・ラモス氏による現代彫刻も置かれている。風雨にさらされてはいるが、ラモス氏の制作した石像は町内の複数の場所でも見ることができる。